

第4章

スポーツ競技として



世界的にラジオ・スポーツという言葉が普及しています。アマチュア無線の技能面を競技としてさらに発展したものです。元祖はコンテスト、そして'90年代から、HST、WRTCが加わりました。

CWは言語によらない万国共通コードで、そのパフォーマンスは人の技能によります。さらにコンディションの読みと最適の作戦展開、技術力による設備改善でも勝敗が分かります。これらをスポーツとしての競技にプロモートしてまとめ上げ、ハムの活性化と国際親善にも役立っています。

本章ではその魅力と動向、それに勝利するためのいくつかの具体的なノウハウを研究してみます。

4-1 コンテスト

コンテストの魅力

● その都度リセット

コンテストをハムの「お祭り」という方もいますが、その過程に「自己訓練」と「研究・改善」「ルール」があり、結果に「勝敗」がある点で、「スポーツ」が最適の表現だと思います。その最大の魅力は、勝敗の結果がその都度リセットされる面白さ

と緊張感でしょう。それに科学的・精神的の両面からチャレンジする面白さも加わります。しかも、同じコンテストにチャレンジするチャンスはたった年1回。同一基準での、設備や運用方法の絶好の評価フィールドにもなります。

競技としても、去年の勝者が今年も勝てる保障はどこにもなく、いつ、どんな新たな強敵が現れるかわかりません。あるいは自分自身の中にもそ

れが^{ひそ}潜んでいます。設備の研究改善や運用作戦が成功するか？コンディションや参加局数などの^{がいん}外因により、自己ベストの更新がかなわないかもしれません。これが毎回リセットされます。DXCCやアワードが過去からのQSO実績と時間の累積結果であるのと異なる点です。

● 毎回工夫、発展の余地がある

成果が毎回リセットされることにより、自己努力とその結果確認をPDCA (Plan Do See Action) できる技術的・人的面白さがあります。前回の自己分析を行い、ロケーション、アンテナ、リグ、シャック全体のシステムアップ、コンディション、時間配分、運用ノウハウ、などを研究改良して、さらなる得点アップにチャレンジできます。時間、ルールなどが毎回コンテストごとに同条件なので、結果を客観的な数値として評価できる点は科学的判定基準に有効です。人的精神面も大変励みや、喜びにもなります。

特にCWの場合はフォーン以上に運用ノウハウを研究する余地が大きく、その努力がそのまま得点・成果に反映する点は、いっそうの魅力です。

最大の勝因は？

コンテストはスポーツと考えると、参加することにも意義がありますが、入賞や、最終的には優勝を目標とすれば、大きな励みになります。

それでは、勝利の秘訣は何でしょうか？古くから「ロケーション、設備、気力、体力、テクニク」と言われていますが、筆者はそれ以前に、「参加時間を確保する」だと思います。どんなにすばらしいハード・ソフトがあっても、時間がなければ、同じ土俵で競技できません。自分の体と頭を時間売りしている多忙な現在社会で、貴重な週末、24時間、または48時間を競技運用に拘束されること



は、大きな価値と引き換えにコンテストへ参加することになります。しかし、趣味であるからこそ、その限りある時間を思う存分ぜいたくに使うことに、大きな意義があるのでしょうか。

最近の潮流

● 年齢層

第1章でハムの年齢の話をしました。コンテスターとDX'er (DXCC) 愛好家の年齢差は10歳くらいはあると思われます。24～48時間不眠不休で運用するコンテストは、それだけ若さが必要ということでしょうか。

一方で、10～20歳代の若手ニューカマーはみずから単独でこの世界に入る方は^{まれ}稀で、学校クラ